

◆ 循環領域

「心臓手術後の早期離床って実際どうなってるの？」

原田 真二（大和成和病院）

みなさん、こんにちは、
循環器セミナーを担当している原田です。

今回は「心臓手術後の早期離床って実際どうなってるの？」という話です。

スウェーデンの研究で、心臓手術を受けた患者さんの初回離床のタイミングや持続時間、どんな離床をしているのかが調査されました。

結論から言うと、「けっこう早く、しっかり離床している！」という感じです。

研究では、5つの大学病院で、冠動脈バイパス術や弁手術や大血管手術など、心臓手術を受けた290名の患者さんを対象に観察しました。

手術後、どれくらいの時間で離床が開始されたのか、どれくらいの時間離床したのか、離床の種類はどうだったのか、そしてどんな因子が影響していたのかを分析しました。

結果は面白いです。

ほとんどの患者さん（96%）が手術後24時間以内に離床しており、そのうち約40%は手術後6時間以内に初回の離床を行っていました。

平均では約8.7時間、中央値は7.1時間です。

手術の種類による差はほとんどませんでした。

つまり、心臓手術の種類に関わらず、患者さんは比較的早くベッドから立ち上がっていたのです。

離床の時間や方法もチェックされています。

初回離床の平均持続時間は20分で半分以上の患者さんは、10分未満の短い時間で離床していました。

そして離床の方法もいろいろで、ベッドの端に座るだけの人もいれば、

立つ人や椅子に座る人もいたそうです。

患者さんの状態に応じて柔軟に対応されているんですね。

さらに、気管挿管時間が長い患者さんほど初回離床が遅れる傾向があり、また初回離床が早いほど離床セッションの持続時間は短いという結果も出ています。

つまり手術後できるだけ早く離床できるよう、気管挿管の早期抜管が重要です。

また、初回離床は長時間行う必要はなく、患者の体力や状態に応じて短時間でも構わないことを理解することで、安全かつ無理のない離床を提供できるのではないか。

というわけで、スウェーデンでも「手術後の最初の一歩」はしっかりと踏まれていました。

私たちもこの研究を参考に、患者さんが安全に、効率よく回復できるよう、離床・リハをしっかりと頑張っていきましょう！

First initiation of mobilization out of bed after cardiac surgery – an observational cross-sectional study in Sweden. J Cardiothorac Surg. 2024;19:420.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38961385/>